



(参考仮訳)

IMF プレスリリース No.07/72
2007 年 4 月 14 日国際通貨基金(IMF)
米国・ワシントン DC

IMF の国際通貨金融委員会(IMFC)による 世界的不均衡に関する多国間協議のレビューについて

国際通貨基金(IMF)専務理事は 2006 年 4 月、「IMF 中期戦略の実施に関する報告書」において、従来の IMF のサーベイランス(政策監視)制度を補完するための新たな枠組み、「多国間協議(マルチラテラル・コンサルテーション)」の導入を提案した。同提案は昨年 4 月の国際通貨金融委員会(IMFC)で了承された。IMFC は IMF に対して政策方針を指示する閣僚レベルの委員会である。IMFC は本日、世界的不均衡(グローバル・インバランス)に関する多国間協議について議論した。同協議は IMF の呼びかけに基づき、中国、ユーロ圏、日本、サウジアラビア、米国が参加して行われた。

この初の多国間協議が目指したのは、世界的不均衡について、またその削減を世界経済の成長を持続しつつ図るための方策について、理解を深め意見を交換する場を提供することである([プレスリリース No.06/118](#) 参照)。参加国の選定基準は、経常収支赤字や黒字が現在の世界的不均衡に直接関わっている国、若しくは世界経済に占める割合が極めて大きいため世界の需要や貯蓄動向が変化する際に世界の経済成長の下支えに寄与できる国、とした。

協議に参加した 5 カ国・地域及び IMF スタッフは、「協議のプロセスは、当事国・地域の代表が一堂に会して、この緊要な課題への取組みを前進させるためにはどのようにすれば最も良いかを議論するもので、有用なイニシアチブとなった。議論はオープンかつ建設的で、問題点の理解や参加国・地域のそれぞれの立場についての相互理解を深めることに寄与した。」と述べている。また参加国・地域がそれぞれの政策プランを実施することは、「各施策が相まって、堅調な経済成長の持続と不均衡の解消に向けたさらなる重要な一歩となる」と述べた。また、「我々は状況の進展に応じ必要な場合には再び協議の場に集まることで合意した」とも述べている。

IMFC 議長を務めるゴードン・ブラウン英蔵相は次のように語った。「1 年前、IMFC は IMF に対して世界的不均衡に関する多国間協議の開始を要請した。本日、IMFC は同協議について議論した。IMFC としては、今回の多国間協議によるアプローチは、IMF 加盟国が協議と協力を通じ国際的な課題に対処するに当たっての有益な経験であったと考える。参加国・地域が示した政策プランは、

世界経済の持続的成長を目指す IMFC の戦略の全ての主要分野において歓迎すべき進展を含んでいる。」

ロドリゴ・デ・ラト IMF 専務理事は次のように述べている。「今回の多国間協議の実りある議論を歓迎する。参加国・地域は、世界的不均衡の是正が多角的な課題であり、好調な世界経済を持続させつつこの課題に対応することは各国共通の責務であると再確認した。参加国・地域は、IMFC の戦略に盛り込まれた施策が多角的な観点から望ましいのみならず、それぞれの国の利益にもかなうものでもあることを強調した。私は、システミックな重要性を持った課題に各国が取り組むのを後押しする上で多国間協議は IMF にとって重要な新しいツールであることを今回の協議は示しており、IMF 加盟諸国がグローバル化をめぐる様々な課題に取り組む上で今後もそうした役割を担い続けよう、と考えている。IMF は引き続き、従来の定期的な多国的サーベイランスや加盟国へのサーベイランスを通して、世界的不均衡問題の進展状況や IMFC の戦略の実施状況を見守っていく考えである。」